

2011年第1回評議員会議事録

日時：2011年2月12日（土曜日）

時間：11時から16時45分

場所：JAMSTEC 東京事務所

出席：海老原充会長，吉田尚弘副会長，鍵裕之，川口慎介，川幡穂高，下田玄，鈴木勝彦，高橋嘉夫，谷水雅治，中井俊一，西尾嘉郎，野尻幸宏，平野直人，松枝秀和，丸岡照幸，山本綱志評議員，三澤啓司

欠席：松久幸敬監事，佐野有司 GJ 編集委員長，橘省吾，谷本浩志，松本拓也，山中寿郎評議員

報告事項

1. 報告事項等

1.1. 庶務 三澤庶務幹事

1.1.1. 2011年度の委員について：学会賞等選考：吉田（11年まで），本（11年まで），野尻（委員長），岩森，山本各会員。鳥居基金：平田（11年まで），蒲生（委員長，12年まで），鍵（13年まで）各会員。

1.1.2. 2011年度の国際文献との契約：不要なバックナンバーを廃棄し，管理コスト削減をめざす。

1.1.3. GJ 出版に関わるテラパブとの覚書2011年度（Vol. 45, No. 1）以降について，ドル円為替レートを85円とし，変動した場合は両方で協議することとする。

1.1.4. 鳥居基金応募状況国内研究集会：3件海外派遣1件。

1.1.5. 学会賞等推薦状況：学会賞2件，功労賞1件，奨励賞3件。

1.1.6. J Stage 早期公開プログラム進捗状況：DOI 付きでGJ 受理論文をJ Stage にて公開（2011年3月開始？）。

1.1.7. 2010年育志賞選考結果：本会からの推薦（1件）は，採択されず。

1.1.8. 和文誌「地球化学」広告：地球科学研究所，三愛科学，ジャスコインタナショナル，太陽日酸，いずも Web，その他は交渉中。

1.2. 会計：谷水会計幹事

1.3. 会員：丸岡会員幹事

12月に入り会費請求書を送付し，1/31に締め切った。請求書到着時点でお知らせのメールニュースを送った。

12月末をもって，3年間会費未納者12名を除名にした。2010年末での1～2年未納者の退会希望に関しては，これまで通り未納のまま「退会」という形にするが，2011年度以降は前もって当該会員と連絡をとって，未納での退会は「除名」

扱いとすることとした。除名者が再度入会を希望する場合は、未納分の納付を義務付ける（明文化されていない）。

会員数の増減（昨年度末との比較する）

会員種別 2009/12 2010/12

一般正会員 722 - > 717

学生正会員 114 - > 119

（うち、学生パック61 - > 55）

シニア正会員 63 - > 62

賛助会員 11 - > 9

（契約口数15 - > 9）

名誉会員 9 - > 9

合計 919 - > 916

年度末の退会者（今年度26名）も昨年度（36名）よりも少なく、入会者が増えなかった分を退会者の減少で補った形で会員数をほぼ維持している。

現在の会員数は、以下のとおり。

日本地球化学会会員数（2011年1月31日）

会員種別 人数

一般正会員 723

学生正会員 119 うち、学生パック36

シニア正会員 62

賛助会員 9 （契約口数9）

名誉会員 9

合計 922

（GJ冊子体配布に関して、要：437名、不要：485名）

会員異動（2010/09/01～2011/01/31）

【入会】

（9月）

（正会員）

9282699 ALAM, MOHAMMAD AYAZ

Universidad de Chile, Departamento de Geologia

9282712 瀬戸繭美 セトマユミ

奈良女子大学・理学部・情報科学科

（学生パック）

9282690 山本真里子 ヤマモトマリコ

名古屋大学大学院・環境学研究科・都市環境学専攻

- 9 2 8 2 6 9 5 片山樹里 カタヤマジュリ
北海道大学理学院・自然史科学専攻
- 9 2 8 2 7 0 0 山中康平 ヤマナカコウヘイ
近畿大学大学院・総合理工学研究科・理学専攻・地球化学研究室
- 9 2 8 2 7 0 2 吉田 怜 ヨシダサトシ
北海道大学大学院・環境科学院・地球圏科学専攻・物質循環・環境変遷学コ
ース
- 9 2 8 2 7 0 3 佐野和広 サノカズヒロ
富山大学大学院・理工学教育部・生物圏環境科学専攻
- 9 2 8 2 7 0 4 太田朋子 オオタトモコ
富山大学大学院・理工学教育部・生物圏環境科学専攻
- 9 2 8 2 7 0 5 高田理恵 タカダリエ
九州大学大学院理学府・地球惑星科学専攻・無機生物圏地球化学研究室
- 9 2 8 2 7 0 6 丸山浩司 マルヤマコウジ
東京大学大学院・理学系研究科・化学専攻地殻化学実験施設
- (1 0 月)
(学生パック)
- 9 2 8 2 7 1 0 福田美保 フクダミホ
筑波大学大学院・生命環境科学研究科
- (1 1 月)
(学生パック)
- 9 2 8 2 7 0 8 斎藤直樹 サイトウナオキ
筑波大学大学院・生命環境科学研究科・環境科学専攻
- (1 2 月)
なし
- (1 月)
(一般正会員)
- 9 2 8 2 7 1 6 大竹 翼 オオタケツバサ
東北大学大学院・理学研究科・地学専攻地球惑星物質科学科
- 9 2 8 2 7 1 7 布川 裕 ヌノカワユタカ
北見工業大学・未利用エネルギー研究センター
- 9 2 8 2 7 1 9 大木可奈子 オオキカナコ
さいたま市健康科学研究センター・環境科学課
- 9 2 8 2 7 2 1 RICHARD, WYSOCZANSKI
National Institute of Water and Atmospheric Research, Ocean
Geology

(学生正会員)

9282718 篠崎鉄哉 シノザキテツヤ

筑波大学大学院・生命環境科学研究科・生命産業科学専攻

(学生パック)

9282714 山崎敦子 ヤマザキアツコ

北海道大学大学院理学院・自然史科学専攻

9282720 北村文彦 キタムラフミヒコ

東京大学大学院・理学系研究科・地殻化学実験施設

【退会】

(9月)

9280731 吉野諭吉 シニア正会員 2009/5/8 逝去

9282379 齊藤友比古 学生正会員 2009/4 逝去

(10月)

なし

(11月)

なし

(12月)

281197 澤田 清 一般正会員 逝去

7280348 森田良美 シニア正会員 逝去

7282056 篠塚一典 一般正会員 2010年度会費未納

5280933 佐藤芳徳 一般正会員 2010年度会費未納

9282499 丸山匡臣 学生正会員 2009, 2010年度会費未納

2282095 西進商事東京支店 賛助会員

4280565 砂川一郎 シニア正会員

7280467 佐藤和郎 シニア正会員

282237 清水直哉 一般正会員

1280920 前田仁一郎 一般正会員

2280213 川野田実夫 一般正会員

2280309 水上正勝 一般正会員

2280462 佐々木一敏 一般正会員

3281237 菅 和哉 一般正会員

4281780 中村純也 一般正会員

5281482 永野哲志 一般正会員

6282127 渡邊眞紀子 一般正会員

7282294 藤本隆之 一般正会員

8280095 平尾良光 一般正会員

8282093	服部裕史	一般正会員
9280690	渡辺吉博	一般正会員
9282074	石橋 浩	一般正会員
9282519	永石一弥	一般正会員
9282586	中尾武史	一般正会員
9282637	川瀬雅也	一般正会員
3282292	石 維	学生正会員
9282411	岡野和貴	学生正会員
9282441	柏 麗麗	学生正会員
9282443	小池庸代	学生正会員
9282549	児玉将大	学生正会員
9282572	小野森弘	学生正会員
9282601	神田ゆか	学生パック
(1月)		
9282683	中嶋勇輔	学生正会員

【会員種別変更】

(9月)

なし

(10月)

なし

(11月)

なし

(12月)

	変更前	変更後
2280525 清水 洋	一般正会員	シニア正会員

(1月)

	変更前	変更後
9282385 吉野 徹	学生正会員	一般正会員
9282486 山岡香子	学生正会員	一般正会員
9282589 萩原崇史	学生パック	学生正会員
9282596 山田健太郎	学生パック	学生正会員
9282597 服部祥平	学生パック	学生正会員
9282605 中田亮一	学生パック	学生正会員
9282608 富部麻利子	学生パック	学生正会員
9282609 山内理恵子	学生パック	学生正会員
9282610 朝比奈健太	学生パック	学生正会員
9282611 小澤 萌	学生パック	学生正会員
9282613 伊藤絵理佳	学生パック	学生正会員

9 2 8 2 6 1 4	松倉誠也	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 1 5	中川麻悠子	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 1 9	安齊沙耶	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 2 0	大山拓也	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 2 1	佐藤晋太郎	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 2 3	佐久間博基	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 2 7	山田明憲	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 2 8	内藤裕一	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 2 9	松田伸太郎	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 3 0	長島加奈	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 3 1	荒川裕子	学生パック	学生正会員
9 2 8 2 6 4 8	長嶺 篤	学生パック	学生正会員

【除名】

(一般正会員)

2 8 1 7 3 3 BARNARD, WALTHER M.

2 8 1 8 1 8 吉村潤也

1 2 8 0 3 6 2 中村裕二

1 2 8 1 5 8 7 齋藤貴之

2 2 8 1 6 0 9 白幡浩志

3 2 8 0 8 1 8 藤田隆男

5 2 8 0 9 1 1 門谷 茂

9 2 8 1 8 5 9 加藤 研

(学生正会員)

3 2 8 2 2 2 5 下川原 誠

9 2 8 2 1 3 7 伊敷 牧

9 2 8 2 4 1 2 福本 塁

9 2 8 2 4 4 0 加藤智樹

1.4. 広報 鈴木 HP 幹事

2011年1月9日に広報委員会を開催。ニュース幹事，広報幹事，HP 幹事の仕事を任期中に整理して，来期に引き継ぐ。

1.4.1. 学会ホームページ

1.4.1.1. 地球化学会サイトにおける「会員の研究成果」宣伝ページの開設について(原田委員担当): 学会ホームページのトップページにおいて，GJ e レターの紹介文を依頼し必ず掲載することとした。委員会から依頼するのは Nature, Science などの一般誌に掲載された場合のみとし，専門誌に掲載された成果の紹介については，

別途「会員による最近の研究成果」ページを新設することとした。原田委員が中心となり、最新の研究成果宣伝ページを開設した。今後メールニュース等を通じて、開設したことを周知する。

1.4.1.2. 英語ページ(各委員担当) Goldschmidt の前に学会ホームページの英語版の整備を計画。広報委員での対応には限度がある。学会ウェブの更新のタイミングで翻訳業者に依頼を検討する。

1.4.1.3. 学会ウェブの改訂について：学会ウェブは掲載する情報が増えたうえに多岐にわたり、情報が見えにくくなってきたので、将来的に(来年前半)中規模の改修をしたい。今後必要な費用について検討を進める。

1.4.1.4. Q&A ページ(丸岡委員担当)：前回の評議員会以降は新しい質問はなかった(これまでの総質問数は4件程度)更にページを充実させるため、新たな質問を追加する予定。

1.4.1.5. 広告の募集：現在ウェブ広告はテラパブのみである。ホームページ広告を年間20万円から12万円に変更した後も新たな広告はなし。アクセス数 2万弱/月。テラパブのクリック数 約140/月。

1.4.2. 講師派遣(山本委員, 小木曾委員担当)：前期から準備を行ってきた講師派遣事業を2010年1月から開始した。本事業は、「最先端の研究者が初等中等教育の場に出向いて、地球や惑星の謎を解く喜びや最先端の科学の現場を伝えることにより、地球化学の視点から理科の面白さを積極的にアピールするとともに、学会と教育現場の交流を促進することを目的」としている。HPに講師の情報を掲載し、高校教師などが登録しているメルマガなどで情報提供してきた。事業開始から約1年、2月8日現在の派遣講師登録ならびに派遣依頼の状況を以下の通りである。派遣講師登録数：41名、出張依頼：13件。

1.4.3. 学会ブース

1.4.3.1. 年会でのブース：地球化学講座第8巻の販売、派遣講師の募集などの役割を終えたこと、広報委員のブースのマネジメントが容易ではないこと等を考慮し、今年の年会で開設しない方針。

1.4.3.2. Goldschmidt2011のブース(下田広報幹事, 折橋委員担当)：Conference bag が配られる場合には、ほとんどのケースで日本地球化学会のパンフとGJのチラシを入れていた。今年は費用対効果を考えて、地球化学会のパンフとGJのチラシをConference bagに入れられない方針。ブースでは例年通り、パンフ、チラシ、GJのCDやGJを配布する。

1.4.3.3. 連合2011大会でのブース(下田広報幹事担当)：地球化学講座第8巻に加え、昨年好評だった会員の著書の販売を行う。その場合スペースが必要なので、昨年同様、2スパンのブースを借りる。ブース代として、3万円×2=6万円を措置希望。また、ブース担当の協力を評議員に要請したい。

1.4.3.4. 学会パンフレット・GJ チラシ配布：評議員が国内外の研究集会に参加する際に、事前に広報委員会に連絡すれば、パンフ・チラシを送る体制。今後、定期的に評議員メーリングリストに流す。

1.5. ニュース：谷本ニュース幹事（庶務幹事代読）

電子メールニュースの配信。2010年12月2日から2011年2月4日までに、No. 168～199（計32件）のメールニュースを配信した。

ニュースレターNo. 203を「地球化学 Vol. 44, No. 4」巻末で発行した（2010年12月25日）。

ニュースレターNo. 204の発行予定（2011年3月25日発行予定）。

2011年度日本地球化学会第58回年会のお知らせ

日本地球化学会年会実行委員長

南川雅男教授（北大大学院地球環境科学研究所）

学会からのお知らせ

「地球化学」誌掲載の博士論文抄録の募集：高橋「地球化学」編集委員長

geochem.jp アカウントの個人利用について：丸岡会員幹事

研究集会報告とお知らせ

日本地球惑星科学連合2011年大会：下田広報幹事

Goldschmidt 国際会議2011：下田広報幹事

鳥居基金助成実施報告（2009年度第2回）TE 66（静岡県立大学環境科学研究所 光延聖）

鳥居基金助成実施報告（2010年度第1回）TE 68（東大大学院理学系研究科 角野浩史）

院生による研究室紹介 No. 19

首都大学東京大学院理工学研究科分子物質化学専攻 宇宙化学研究室（海老原充教授）（日高義浩）

1.6. GJ 佐野編集委員長（庶務幹事代読）

1.6.1. 2011年発行状況（1月28日現在）：2010年 No. 6は、1月に配布された。2011年 No. 1は、郵送の都合により3月25日に配布予定。

1.6.2. GJ 誌の表紙デザインを更新する予定。新編集委員長体制にあわせるとともに、和文誌「地球化学」の現表紙デザインとも関係しているので、充分考慮する。

1.7. 和文誌「地球化学」：高橋編集委員長

1.7.1. 編集委員の交代：沢田委員から辞任の申し出があり、代わりに高野淑識会員が編集委員となった。

1.7.2. 記事掲載予定：2011年 Vol. 45, No. 1。

企画総説「地球化学の最前線」

重光雅仁，山中康裕：生態系モデルを用いた海洋における物質循環解析

報文

渡邊泉，秋山太一，佐野翔一：沖縄島北部やんばる地域の生態系における水銀分布と他元素との関係

企画総説「地球化学の最前線」

原稿受付中。現在の投稿状況査読中。

板井啓明（本年2号掲載予定）：ベンガル平野における天然由来のヒ素による大規模な地下水汚染の発生機構～フィールド・実験的研究の現状と今後の課題～

吉村寿紘，谷水雅治（本年3号掲載予定）：炭酸カルシウムのCa，Mg安定同位体分別（執筆依頼中）

臼井寛裕：近年の火星隕石研究・火星探査から得られた火星の描像

執筆依頼予定者：角野浩史，平賀岳彦

投稿報文現在2編査読中

1.8. 企画：鍵企画幹事

1.8.1. 2010年会（立正大学）報告：黒字の原因として，国際文献からの送金額が予想より大きかったこと，要旨集の印刷代が抑えられたこと，名札を名刺大の紙（色紙でない）に印刷したことが挙げられる。残金は基本的に北大に送金する（福岡実行委員長）。

1.8.2. 2011年 年会開催地：北大学術交流会館（北8条西5丁目），大学院地球環境科学研究所（北10条西5丁目）。会期：2011年9月14日■から16日■。実行委員長：南川雅男。会員市民講演会：2011年9月17日■か9月10日■未定。「環境と宇宙の地球化学」（科研費申請済 4月に不採択の通知）。役割分担：会計（杉本敦子），会場・庶務（山本正伸），懇親会（角皆潤），プログラム（河村公隆），市民講演会（坂本尚義），ホームページ登録申し込み（入野智久）。

年会のホームページ（講演申し込みを含む）は国際文献印刷のシステムを利用：プログラムについてはセッション制を踏襲。

1.8.3. 2012年 年会：開催地：九州大学箱崎キャンパス文系地区。実行委員長：吉村和久教授（九州大学理学研究所化学部門）。開催時期：2012年9月中下旬の3日間。夏季休業中で9月の前半は使えない予定（時期に関しては，2012年2月頃に初めて確定）。

2. 審議事項

2.1. 会員サービス向上に向けて

2.1.1. @geochem.jp アカウント利用について：「xxxx@geochem.jp」の個人アカウントを必要な会員に提供することが承認され，国際文献が手動にて<100件登録することとなった。会員幹事を窓口とし，年度ごとに使用の有無を確認する。年度末前にメールニュース，日本地球化学会ニュースNo.204にてアナウンスをお願いし，

利用者を募る。

2.1.2. My page の充実化：項単価が10万円ということから，項目として追加が必要なものがあれば対応する。

2.1.3. その他：GJ 閲覧のパスワード，テラパブ（パスワード発行），国際文献（mypage）のやり取りが一元化されていない。GJ 早期公開サービスの開始に合わせて，パスワード発行，管理を再度検討する。

2.2. GJ および和文誌「地球科学」の編集体制および編集委員長選出方法

Geochemical Journal および和文誌「地球化学」の編集体制に関する提案が高橋嘉夫，吉田尚弘（日本地球化学会将来計画委員会）からなされ，重要かつ喫緊の課題である GJ の編集体制および GJ 編集委員長等の選出方法について，将来計画委員会案をもとに議論した。

2.2.1. GJ の編集体制について：GJ を取り巻く環境には，地球惑星科学連合の新雑誌への対応，アジア圏からの投稿増加に対する対応，迅速な対応が可能な編集体制の構築の必要性など，困難な問題が多く生じている。そのような中で，GJ の編集体制は現在のところ編集委員長に過度の負担がかかる構造となっており，編集委員長をサポートする体制を確立して，上記のような問題に常に迅速かつ適切に対応する必要性に迫られていた。

2.2.2. 和文誌「地球化学」の編集委員長の選出方法について：和文誌「地球化学」も，会員間の重要なコミュニケーション媒体として重要である。和文誌「地球化学」編集委員長の選出についても，これまで明確な取り決めがなかった。

このような中で，2010年9月9日開催の将来計画委員会において，編集委員長を様々な面で補佐する副編集委員長を置くことが提案された。その後，佐野 GJ 編集委員長と議論をおこない，また幹事会，将来計画委員会での検討をふまえて提言がなされた。

字句等の修正がなされた後，Geochemical Journal および和文誌「地球化学」の編集体制に関する申し合わせが承認され，以下が申し合わせ事項として確定した。

Geochemical Journal の編集体制に関する申し合わせ

(1) Geochemical Journal (GJ) の編集は，GJ 編集委員長 (Executive Editor) 1 名，GJ 副編集委員長 (Vice Executive Editor) 3 ~ 5 名，GJ 編集委員長が任命した GJ 編集委員 (Associate Editor) から構成される GJ 編集委員会がおこなう。

(2) GJ 編集委員長の任期は2年とし，再任を妨げない。任期は1月1日を開始日とする。GJ 編集委員長は，任期2年目の第1回評議員会において，次期も継続して任にあたるかを表明し，承認を得る。GJ 編集委員長が交代となる場合，会長，副会長，現 GJ 編集委員長の3名と会長が指名した若干名を加えた GJ 編集委員長選考委員会において次期 GJ 編集委員長候補者を選出し，評議員会に諮る。次期 GJ 編集委員長は，現

GJ 編集委員長の任期満了の6カ月前（前年6月末日）までに決定する。

(3) GJ 副編集委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。任期は1月1日を開始日とする。新GJ 編集委員長が選出された後に、会長、副会長、新GJ 編集委員長の3名と会長が指名した若干名を加えたGJ 副編集委員長選考委員会においてGJ 副編集委員長候補者を選出し、評議員会に諮る。新GJ 副編集委員長は、新GJ 編集委員長が主宰する新たな編集体制の構築に参画する。

(4) 次期GJ 編集体制の決定は、2011年2月12日開催の評議員会において示されたスケジュールに沿って進める。

*参考：2011年2月12日開催の評議員会において示されたGJ 次期編集体制構築の手順

GJ 編集委員長が当期末をもって交代する場合、次期GJ 編集体制は、以下の手続きを経て決定される。

2月：評議員会において、GJ 編集委員長の当期末での交代あるいは継続の意思確認をおこない、承認

*以下GJ 編集委員長が交代する場合のスケジュール

3～5月：GJ 編集委員長選考委員会において次期GJ 編集委員長候補者を選出

6月：次期GJ 編集委員長候補者について、評議員会においてメール審議

9月：GJ 副編集委員長選考委員会においてGJ 副編集委員長候補者を選出

9月：次期GJ 副編集委員長候補者について、総会期間中に開催される評議員会において審議

和文誌「地球化学」の編集体制に関する申し合わせ

(1) 和文誌「地球化学」の編集は、「地球化学」編集委員長と「地球化学」編集委員長が任命した「地球化学」編集委員から構成される「地球化学」編集委員会がおこなう。

(2) 「地球化学」編集委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。任期は1月1日を開始日とする。「地球化学」編集委員長は、任期2年目の第1回評議員会において、次期も継続して任にあたるかを表明し、承認を得る。「地球化学」編集委員長が交代となる場合、次期「地球化学」編集委員長は、会長、副会長、現「地球化学」編集委員長の3名と会長が指名した若干名を加えた「地球化学」編集委員長選考委員会において候補者を選出し、評議員会に諮る。次期「地球化学」編集委員長は、現「地球化学」編集委員長の任期満了の6カ月前（前年6月末日）までに決定する。

(3) 「地球化学」副編集委員長は、必要と判断された場合に、「地球化学」編集委員長が候補者を選出し会長の承認を得て任命することができる。

(4) 次期「地球化学」編集委員長の決定は、2011年2月12日開催の評議員会に

において示されたスケジュールに沿って進める。

*参考：2011年2月12日開催の評議員会において示された和文誌「地球化学」編集委員長の決定スケジュール

現「地球化学」編集委員長が当期末をもって交代する場合、次期「地球化学」編集委員長は以下の手続きを経て決定される。

2月：評議員会において「地球化学」編集委員長の当期任期末での交代あるいは継続の意思確認おこない、承認

*以下「地球化学」編集委員長が交代する場合のスケジュール

3～5月：「地球化学」編集委員長選考委員会において次期「地球化学」編集委員長候補者を選出

6月：次期「地球化学」編集委員長案について、評議員会においてメール審議

2.3. GJの今後と出版社選定

海老原会長から出版社の条件を比較した表について説明があり、今後テラとSpringerの2社に絞って検討を続けていくことが了承された。契約は、1月1日からとなるように努力する。

2.4. 横浜国立大学教育人間科学部 CST 養成プログラム

実施委員として、鍵企画幹事を推薦した。

2.5. 育志賞学会推薦選考方法

日本学術振興会育志賞の学会推薦の選考(1件)は、鳥居基金委員会がおこない、評議員会の承認をえることとした。

2.6. 講師派遣事業へのサポートについて

講師派遣事業は、この分野の裾野を広げ、将来の地球化学にとって重要な活動であることから。学会から講師派遣事業(講師の旅費)として20万円措置することとした。

2.7. 協賛、共催について

原子力総合シンポジウム2011(委員：松尾会員、協賛金5,000円)第48回アイソトープ・放射線研究発表会(委員：村松会員)の協賛、共催を承認した。

3. その他

3.1. 松本評議員の海外異動について

海外在住の評議員として残任期間11ヶ月弱を活動していただく。

3.2. GS 分担金について

2010年が未払いであるが、そのままとする。2011年はLOCなどと連絡済、USD3,000支払う予定。

3.3.2012～13年役員選挙について

選挙管理委員長として、鈴木評議員、選挙管理委員として鍵評議員 + JAMSTEC 所属の会員数名をお願いします。

3.4.2011世界化学年に関連したイベント、共催等について

ショートコース、講演会、講師派遣の際に共催事業であることを謳う。